

秋田内陸線

再生に向けて出発進行！

鷹巣

合川

米内沢

阿仁前田

阿仁合

比立内

阿仁マタギ

上桧木内

松葉

角館

西明寺



秋田内陸線の現状

悲願の全線開業と厳しい経営環境

秋田内陸線は、平成元年に北秋田と仙北地域を結ぶ第三セクター鉄道として全線開業し、沿線地域住民の生活を支える交通手段として、重要な役割を担って走っています。

しかし、近年は人口の減少や車社会の進展などにより乗客数が減少し、会社では毎年3億円近い経常損失（赤字）となり厳しい経営が続いています。

これまでの取り組み

平成14～16年度を「頑張る3年間」と位置づけ経営改善に努力した結果、定期外客（行楽客等）の回復には明るさが見えつつあるものの、定期客（日常生活客）の減少や、安全運行のための施設改修費の増加などにより経営環境は厳しさを増しています。

再生に向けた検討

平成15年12月「秋田内陸沿線地域交通懇話会」が設置され、今後の地域交通のあり方について検討が重ねられました。その結果『内陸線については、行政、地域住民、会社が一体となって再生に全力を尽くす』とし、平成17年7月「秋田内陸線再生支援協議会」が設立され、本年1月「秋田内陸線再生計画」が策定されました。



仙北市上桧木内地区の小正月行事「紙風船上げ」で沿線住民がPR

再生計画が目指すもの

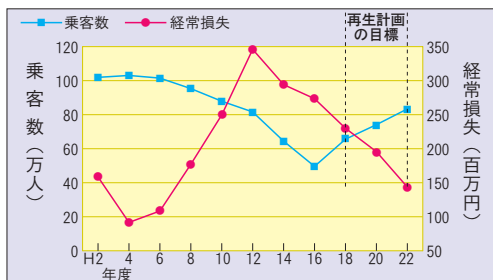


秋田内陸線は、日常生活における重要な交通手段としての役割に加え、新しいまちづくりを進める上で、特に観光産業との連携により地域活性化につながる貴重な資源としての可能性も持っています。

これを機に沿線地域が一丸となり「**自分たちの内陸線は、自分たちが守る！**」という強い熱意を持ち、一人ひとりが支援行動を起こすことで、これからも元気に走り続けてもらおうとするものです。

再生計画の主要施策と目標値

- ★利用者への利便性向上
- ★利用者へのサービス向上
- ★積極的な地域乗車運動
- ★沿線地域団体や住民による支援活動
- ★観光産業とのタイアップ強化等



経常損失への負担割合	
秋田県	50.0%
北秋田市	29.8%
仙北市	19.7%
上小阿仁村	0.5%
計	100%



☆次号予告 再生計画の具体的施策と、皆様へのお願いについて掲載します。

お聞かせください。内陸線の再生に向けて「自分たちの鉄道だから、自分たちで考えたこと！」
あんなこと、こんなこと、たくさんのご提言をお寄せください。お手紙、FAX、メールでも結構です。

仙北市総務部企画政策課 (TEL43-1112 FAX43-1300 メールkikaku@city.semboku.lg.jp)

秋田内陸縦貫鉄道(株)、北秋田市企画部総合政策課、上小阿仁村総務課